

1. タイプⅡ線維と比較して, タイプⅠ線維にはミオグロビン量が少ない
× ミオグロビンは酸素と関係 ▶タイプⅠ

2. 赤筋では白筋に比較して, ミトコンドリアを多く含む
○

3. 赤筋は白筋に比較して, 易疲労性がある
×: 易疲労性とは疲れやすいということであり, 疲れやすいのはパワー系の白筋

4. 赤筋は白筋に比較して, 収縮速度が遅い
○

5. 赤筋は白筋に比較して, ミトコンドリアが少ない
×: ミトコンドリアは酸素と関係 ▶ 赤筋

6. 筋収縮時には筋小胞体からカリウムイオンが放出される
×: カルシウムイオン

7. 赤筋は白筋に比較して持続的緊張に適している
○: 抗重力筋などを含め, 持久力の能力が高いため

8. 刺激はT管系を通じて筋線維内へ伝えられる



9. 赤筋は白筋に比較して, 毛細血管が密である

○: 毛細血管が密だからゆえに筋の色も赤い

10. 筋収縮時には筋小胞体からカルシウムイオンが放出される

○: カリウムとの見間違いに注意

11. 疲労しやすいのは白筋である



12. 毛細血管が密なのは赤筋である



13. 白筋はミオグロビン含有量が多い

×: ミオグロビンは赤筋

14. 白筋の単収縮の速度は速い

○: 赤筋と比較して白筋はパワー系

15. 白筋は抗重力筋に多い

×: パワーがあるものの閾値が低くて疲れやすい筋線維を抗重力筋に使うと, すぐに疲れてしまいそうですよね.

16. 白筋にはATPが多い

○

17. フィラメントの滑走により筋収縮が起こる

○

18. タイプ II a線維の単収縮速度は遅い

×: タイプ II として扱えば簡単ですね

19. 筋収縮時には筋小胞体からナトリウムイオンが放出される

×: カルシウムイオン

20. 赤筋は白筋に比較して, グリコーゲン含有量が少ない

○: グリコーゲンは解糖系であり, 無酸素系の分類となるため, グリコーゲン含有量は白筋で多い

21. 赤筋は白筋に比較して, 直径が大きい
×: 力強いパワー系の白筋は直径も太い

22. タイプ II b線維の解糖活性は高い
○: タイプ2として扱うとよい.

23. 筋収縮によって熱を産生する
○

24. カルシウムイオンは筋収縮のエネルギー源
×: 筋収縮のエネルギーはATP

25. 赤筋は白筋に比較して, 解糖系酵素活性が低い
○: 解糖系は無酸素系であり, 白筋で活性が高い

26. タイプ II bは抗重力筋に多い
×: 抗重力筋に多いのは赤筋でタイプ I